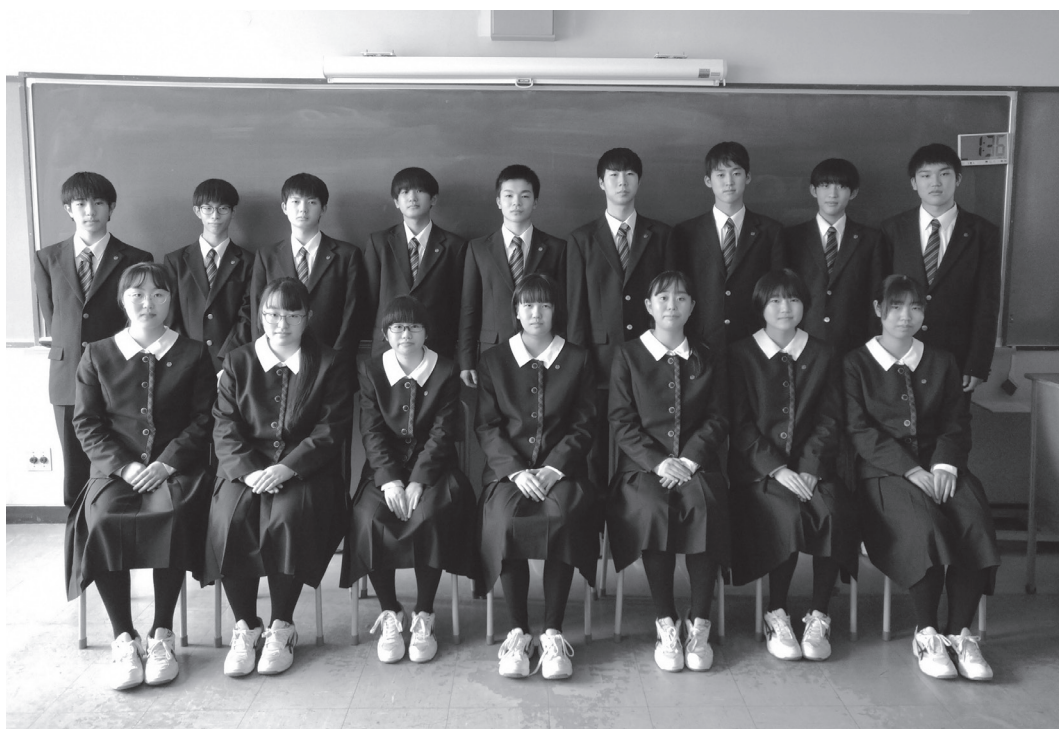
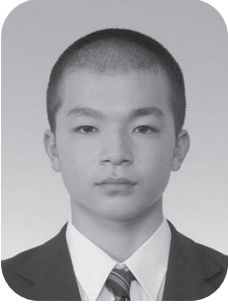


(3) 青森県立青森中央高等学校

「青森県の人口問題
～青森県の魅力を伝えよう～」



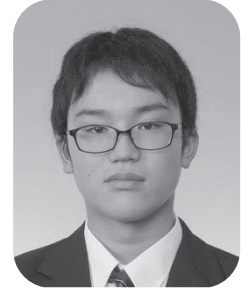
政策を考えた青森中央高等学校の皆さんから、メッセージをいただきました！



おがさわら ゆい
小笠原 唯 (1学年)

今の青森の問題を自分なりに考え、どうしていけば良いのかを考えて取り組みました。

青森の課題を知って、その問題の解決策を仲間と協力して考えることができてよかった。本当にできそうなこともあったので、これからも生かしていきたい。



かんばやし とうま
上林 冬馬 (1学年)



なかひがし こお
中東 鼓央 (1学年)

現在の青森の人口問題について考え、どうすれば改善できるかを考えました。

情報や資料集めと発表のスライド作りを頑張りました。仲間と青森市の資料を置いていそうな施設に行ったり、スライドを一度作ったことがあったので、使い方を教えたり、積極的に作ったりしました。



くどう あすか
工藤 明日香 (1学年)



ごとう さやか
後藤 彩花 (1学年)

模擬議会になぜ出なかったかという、中学生の時に「子ども議会」の議長として、議会に参加したことがあったからです。中学生の時は進行役だったので、今回は発表する側として挑戦したいと思いました。

調べ作業を通して、新たな青森県の魅力を知ったり、問題点が分かると、様々な角度からふるさとである青森県について考え、校内で発表することができました。皆の前で発表した時はとても緊張しましたが、自分の自信になったと思います。

スライドや発表原稿を制作するのを頑張りました。「人口問題」という難しいテーマから掘り下げていくのは大変でしたが、良い思い出になったと思います。



ながお あけみ
長尾 明美 (1学年)



くどう はると
工藤 陽斗 (1 学年)

青森県の人口問題はとても重要な課題です。それを少しでも改善するために、今僕たち高校生にできることを考え、パワーポイントの作成を頑張りました。

「人口問題」について意見を出し合い、まとめることを頑張りました。また、自分たちでまとめた内容を聞き手に伝わるように、発表を工夫しました。この活動を通して「人口問題」はすごく身近な問題だと感じることができました。



こん ふうか
今 楓花 (1 学年)

一人で考えるよりも複数で意見を出し合うことで固定観念にとらわれず、柔軟に考えることができました。



よしだ あやか
吉田 彩華 (1 学年)

青森県の人口問題を解決するには、どのようなことをすれば良いのかを真剣に考えながら取り組みました。



あぼ ゆうき
阿保 優稀 (1 学年)

発表を傍観する人にとって理解してもらいやすい台本とパワーポイントの制作を心がけました。



くどう ようこ
工藤 陽昴 (1 学年)

同じメンバーと案を出し合って、青森県の魅力を他の人に伝えるためにできることを考えました。



くらや しょうた
倉谷 翔汰 (1 学年)

議会チームでは、スプレッドシートを用いて、プレゼン用の資料作りを一番頑張りました。どうやったら見やすく、わかりやすい資料にできるか、皆で試行錯誤して資料を作りました。

将来、この経験を活かしたいです。



あべ ゆうと
阿部 悠人 (1 学年)

青森の課題について考えるととてもいい機会だったと思います。この課題が解決されると良いと思いました。



みかみ じゅりん (1 学年)
三上 樹凜



さかもと なな (1 学年)
坂本 菜那

今、青森県が抱えている問題を調査し、内容を考え、議会では残念ながら発表はできませんでしたが、校内で発表する機会を与えていただき、とてもよい経験になったと思います。今回学んだことを、2・3年次のあすなる学に活かしていけるようにしたいです。

やれるものはやろうと思い、模擬議会に取り組みました。他のメンバーと協力しながら研究し、まとめあげることができてよかったです。



さとう ももか (1 学年)
佐藤 百華

「高校生模擬議会」チームを見守って

青森中央高等学校 1年次主任 工藤 広幸

11月4日からスタートした本校模擬議会チームの活動を見守り、ほんの少しだけアドバイスを送ってきました。各クラスから3名から4名選出してもらい、チームを編成しましたが、さすが各クラスの代表だけあって、最初から取り組む姿勢は良かったと思います。

ただ、彼らを取り上げた青森県の諸問題は、「人口問題」でした。これは、県を始め各市町村でも頭を抱えて長年取り組んできた難題中の難題です。この問題に対していいアイデア出せるのか、上手く提言できるのか、不安いっぱい船出でした。

しかし、昔から「三人寄れば文殊の知恵」というように、各班から青森県を変えなければならないという強い思いが少しずつ伝わってきて、最終的には提言がまとまりました。本校チームが言いたいことは、青森県のたくさんある魅力を様々な方法で発信し、青森県に興味をもってもらい、できれば県外から移住してくれる人を増やしたい、というものでした。少し前ですが、県外の30代の女性の方で、ねぶた制作に興味を持ち、単身で青森市に移住し、ねぶた師に弟子入りしてねぶたに人生を捧げる決意をした方について、テレビのニュースで取り上げていました。このような方が益々増えてほしいと思いました。

ただ、現実はその甘くありません。この青森県の人口問題は、私のようにもう少しで教員を引退する人間にとっての問題というよりも、現役の高校生が成人し、社会人となった時に誰もが直面するとてつもなく大きな社会問題なのです。今回の研究をきっかけにして、これからも継続して「青森県の人口問題」について日々考え、様々な機会や場で発表、発信してくれることを祈っております。

1

青森県の人口問題

～青森県の魅力を伝えよう～

青森県立青森中央高等学校

私たちは、青森県内の若者の流出を防ぎ、県外の若者に興味を持ってもらうために、青森県の魅力を伝えていくことが必要だと考えました。(1)

2

イベントを開く！

イベント内容

青森県のご当地グルメの屋台を出す

ねぶた祭り体験

りんごのイベント

まず最初に、イベントを開催することを提案します。

イベント内容は、青森県のご当地グルメの屋台を出すことや、同時に、ねぶた祭り体験、ゲーム、りんごのイベントなどです。(2)

3

イベント開催地

イベント開催地は毎年変えます。

理由は、場所を切り替えたほうが青森県のいろいろな場所でPRできると思うからです。


日程は、その市町村の季節を感じられる時期がいいと思います。

例えば、青森市は夏（ねぶた祭りがあるから）、弘前市は春（桜祭り）、十和田市は冬（イルミネーション）などの時期にイベントをすればいいと思いました。(3)

4

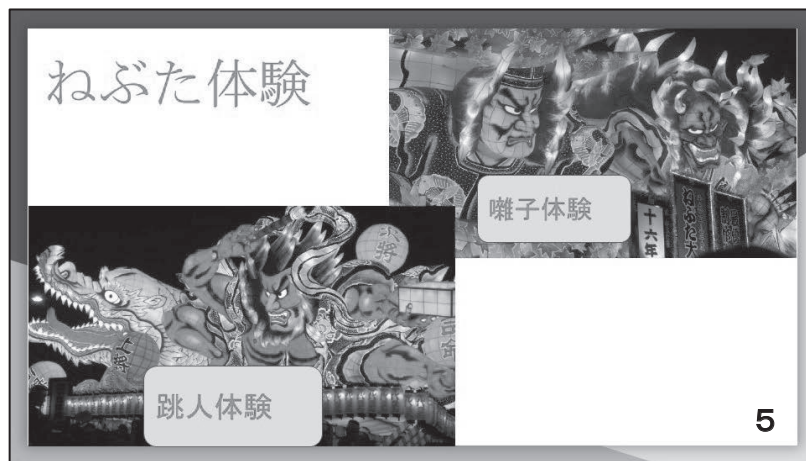
青森県のご当地グルメの屋台を出す

例 十和田バラ焼き、せんべい汁、いちご煮、アップルパイ、りんごジュース、大間のマグロ、味噌カレー牛乳ラーメン、ホタテ、たけのこ汁、貝焼き味噌、嶽きみ



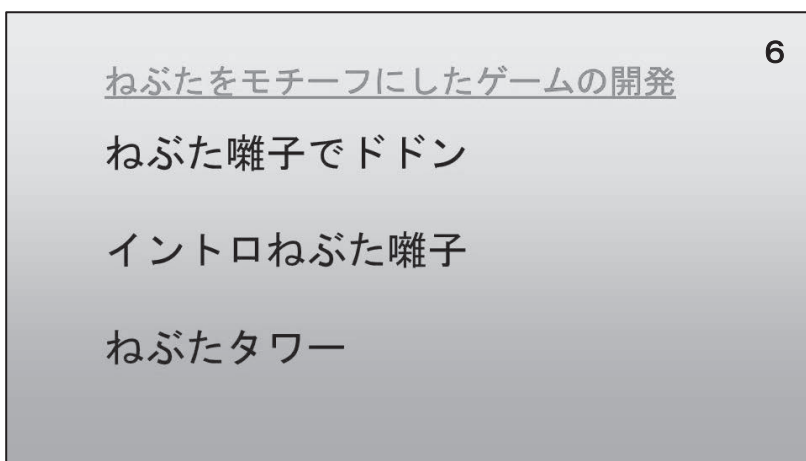
イベント内容の1つ目は、青森県のご当地グルメの屋台を出すことです。

例えば、十和田バラ焼き、せんべい汁、いちご煮、アップルパイ、りんごジュース、大間のマグロ、味噌カレー牛乳ラーメン、ホタテ、たけのこ汁、貝焼き味噌、嶽きみなどです。(4)



2つ目は、ねぶた体験です。

ねぶた体験では、ミニねぶたを展示し、跳人や囃子などが体験できます。(5)

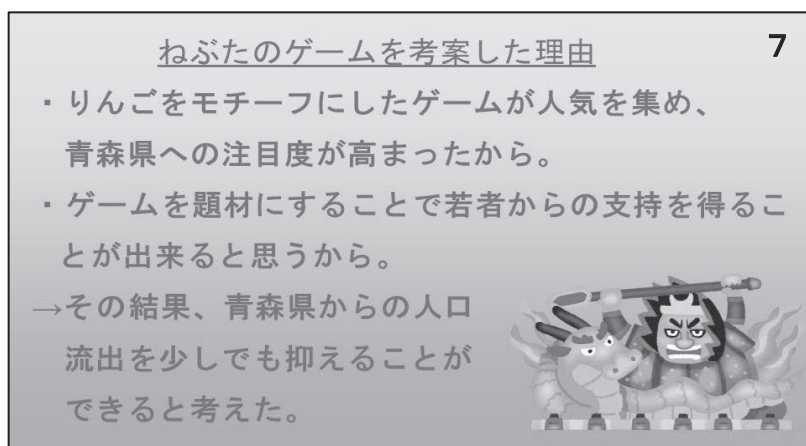


さらに、ねぶたをモチーフにしたゲームの開発も考えています。

例として、「ねぶた囃子でドドン」、「イントロねぶた囃子」「ねぶたタワー」があります。

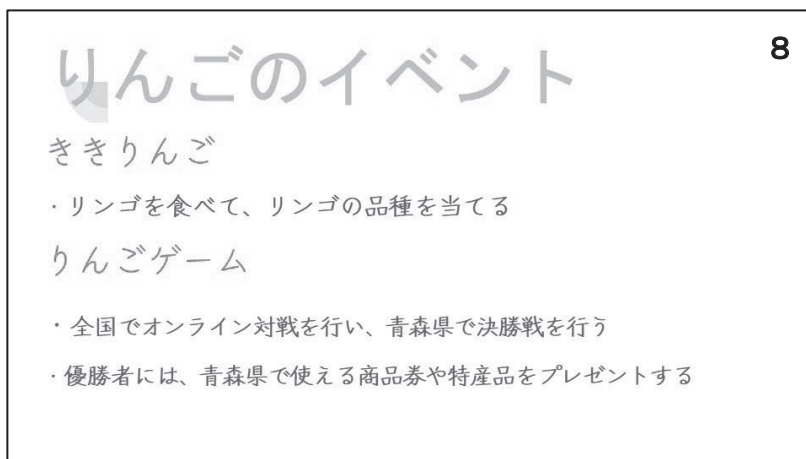
「ねぶた囃子でドドン」は、太鼓の達人のようにリズムに合わせて太鼓を叩くゲームです。

「イントロねぶた囃子」は、様々な団体のねぶた囃子を聴いて当てるゲームです。



「ねぶたタワー」は、青森市のねぶた、弘前市のねぶた、五所川原市の立佞武多など、様々な種類のねぶたが上から落ちてきてそれらを積み重ねるゲームです。(6・7)

3つ目は、りんごのイベントです。



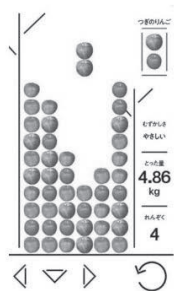
「ききりんご」と「りんごゲーム」を提案します。

「ききりんご」は、青森県産のりんごを食べて、品種を当てるゲームです。

「りんごゲーム」では、全国でオンライン対戦を行い、青森県で決勝戦を行います。優勝者には青森県で使える商品券や特産品をプレゼントします。(8)

ぷよりんごの遊び方

9



1. ぷよりんごが2個連なって落ちてくる。
2. 同じぷよりんごを4個以上繋げて消す。
3. 画面の上までぷよりんごが積み重なるとゲームオーバー。

「りんごゲーム」は、元々ある青森県のぷよりんごを使って行います。

ぷよりんごの遊び方ですが、2個連なって色々な品種のりんごが落ちてきます。次に、同じぷよりんごを4個以上つなげて消します。画面の上までぷよりんごが積み重なるとゲームオーバーです。(9)

～SNSの活用～

10



イベント開催の次に提案するのは、「SNSの活用」です。

高校生でもほとんどの人がスマホを持っており、SNSを利用していると思います。今回は画面の4つのSNSについてどのようにPRしていくのか考えました。(10)

1つ目は「Instagram」です。

調べると、青森県のアカウントがもうすでにあり、投稿している写真は魅力的でした。



～Instagram～

11



青森を全世界に！

- ・英語の#を使う
- ・独自の#を使い広める
- ・#を使ったキャンペーン

そのため、今あるアカウントを使い、写真をより多くの人に見てもらうために、#の活用が重要だと思います。

例えば、外国の人にも見られるように、英語の#を使う、#をつけて投稿してくれた人の中から抽選で県産品をプレゼントするキャンペーンを行います。(11)

2つ目は「TikTok」です。魅力を伝えるというよりは、話題作りの場として利用した方がいいと考えました。



～TikTok～

12



話題作りの場として！

- ・話題になりやすく、印象に残りやすい音楽を使う
- ・簡単な振り付け
- ・#の活用

TikTokは短めの動画の方が見やすいため短めに作り、若い人たちの間で話題になりやすい印象に残る音楽を使うとよいと思います。

少し前に話題になった青森ナイチンゲールのように個性的で、親しみやすい感じの方が流行りやすいと感じます。簡単な振り付けを付けるなどするとより広まりやすく、印象に残ると思います。(12)

 ~YouTube~ 13

魅力を分かりやすく！

- ・ shorts動画で手軽に
- ・ 有名Youtuberに依頼をし、プロモーションしてもらう
- ・ アーカイブも見られる



3つ目は「YouTube」です。

青森の観光動画を見たところ、映像自体はとても魅力的だったので、今あるアカウントを使い、短めの動画で手軽に見られるshortsを活用するのが良いと思います。

また、有名なYouTuberに依頼してプロモーションしてもらうのも多くの人の目に留まると考えました。(13)

 ~Twitter~ 14

青森ならではの！

- ・ キャンペーンを活用する
- ・ 他県では見られないものを載せる
- ・ 写真や動画を積極的に活用する



4つ目は「Twitter」です。

青森県のTwitterを見たところ「ぶよりんご」や「雪」関連の投稿が伸びていました。

また、写真や動画を付けたほうが目に留まりやすく、他県で見られないような青森県ならではのもののほうが「いいね」が多くなっていました。



Instagramのように、リツイートとフォローをした人の中から抽選でプレゼントをすると、より盛り上がると思います。

その他

アニメや漫画で！

- ・ 聖地巡礼スポットでPR

代表例 ジブリ映画
借りぐらしのアリエッティ 15





また、これらのようにSNSを活用することでいろいろなイベントやゲームをより盛り上げることができると考えました。(14)

さらに、アニメや漫画に出てくる地域を、ファン向けに聖地巡礼スポットとしてPRするという方法もあります。

代表的なものは「借りぐらしのアリエッティ」です。

青森の空き家を利用して
県外の移住者を
受け入れること



16

青森県出身の作者が描いている「ふらいんぐういっち」や「ましろのおと」などの作品とコラボし、登場した場所をSNSを使い宣伝していくと良いと考えました。(15)

「SNSの活用」の次に私たちは、人口を増やすための対策として、県外の移住者を受け入れるために青森県の空き家を利用することを提案します。(16)

17

・空き家率13.8%

→ 全国より+0.3%

(移住促進につなげる空き家活用推進事業 H29年度)

今の青森県は、空き家対策をしているものの、全国よりも空き家率が高い傾向にあることがわかりました。(17)

18

移住希望者の関心事

1位『住まい』

2位『仕事』

3位『移住者支援制度』

(移住促進につなげる空き家活用推進事業 H29年度)

移住者の一番の関心事も、「住まい」についてでした。(18)

19

空き家をリフォームすることの利点

・地域の雰囲気良くすることができる

・経費の削減



人口増加

空き家をリフォームすることの利点は、町全体が明るくなり、元の骨組みを使うことにより経費の削減につながる事です。

また、家が新しくなることによって、他県からの移住が促進され、人口の増加につながると考えました。(19)

20



リフォームの時にWi-Fiの環境も整えます

その他に、空き家にWi-Fiの環境を整えることによってオンラインでできる仕事を利用して、起業できるのではないかと考えました。(20)

移住者の仕事

- ・リンゴの収穫
- ・お墓掃除
- ・雪かき など

Wi-Fiもあるのでオンラインの仕事も可能？



また、移住者の仕事として、リンゴの収穫やお墓掃除などの仕事があり、「シェアジョブ」で探すことができます。(21)

まとめ

- ① イベント開催！
- ② SNSによる活動
- ③ アニメや漫画でもPR
- ④ 空き家提供

22

まとめです。

まず、青森に興味をもってもらうためにイベントを開催します。

そして、InstagramやTikTok等で青森をPRするなど、SNSによる活動を行います。

さらに、青森県がアニメや漫画の聖地としても人気があるということを知ってもらいます。

ご清聴

ありがとう

ございました！

23

もし『青森に住みたい！』という要望があったとき、すぐに対応できるように、空き家の環境を整えておくことが良いと考えました。(22)

青森県には、こんなに素敵な魅力があるということをいろいろな方法で伝えていけたら良いかと私たちは考えます。(23)

【県議会議員よりコメント】

● こん ひろし 博 議員（立憲民主党）



青森中央高校の皆さんのすばらしい政策提案を拝見させていただき、県議会議員として大変勉強になりました。

特に若者の県内定着、流出を防ぐため、イベントを活用した「ご当地グルメ屋台」作戦、SNSを活用しながら県の大きな課題である空き家解消にも繋がる提案は、まさに県議会でも充分議論、検討する価値のある内容だと思います。

皆さんが一番心配しておられる「青森県の人口問題～青森県の魅力を伝えよう～」は、3月2日から論戦がかわされた第309回県議会定例会でも、同じ様に県の魅力を生かした若者の県内定着と人口減少に歯止めをかけるための予算案、条例案が提案されました。

1ヵ月あまりの議論が行われ、高校生の皆さんの声に応える事業が、新年度令和4年度の予算に盛り込まれたものと思っています。

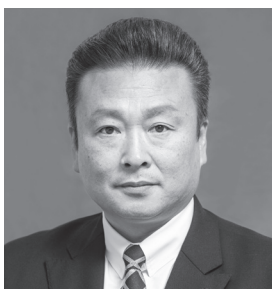
1つは持続可能な地域づくり「あおり創造学」プロジェクト事業費（R4～R6）。県立高校全生徒が高校生活3年間の中で地域資源や人財を活用して、総合的な探究の時間等において高校の所在地域及び自身の居住地域等について理解を深める学習「あおり創造学」を進め、地域と協力しながら生徒1人1人の「ふるさとあおり」への愛着や誇り、夢を抱き未来に向かって挑戦する意欲の醸成に取り組み、その成果を県内公立小中学校及び地域に発信する事業です（当初予算額1,718万円）。

さらに「あおり若者定着奨学金返還支援制度」も創設します。若者の県内定着と人財確保に向け、県は大学などを卒業して県内就職する若者の奨学金返還を支援するため、企業と連携して最大150万円を補助する制度です。

県内に居住しながら県内事業所に6年以上勤めることが条件で、2023年度就職者から支援し、2028年度まで550人を支援するものです。短大や高等専門学校、専修学校専門課程の学生は、上限75万円となっています。

高校生の皆さんもぜひこの制度を活用し、返還期間の短縮と、将来結婚し子どもを産み育てる時期に負担を軽くし、よりよい未来を切り拓く事ができると思います（当初予算額8,883万円）。

● たにかわ まさと 谷川 政人 議員（自由民主党）



本県の人口減少や少子化、高齢化は、全国の中でも速いスピードで進んでいる状況であり、このことがさらに進めば、労働力や消費活動の減少による経済規模の縮小、税収減、社会保障費の増大など様々な問題を引き起こすことになり、青森県としての地域運営が持続できなくなることが懸念されております。

今回、青森中央高等学校の皆さんは、こうした本県の人口を取り巻く様々な問題に目を向け、まずは県内で生まれ育った若者たちを県外に流出させないようにするため、地元青森県に誇りをもって住み続けてくれるよう工夫を凝らしたイベントを多数開催すること。また、他の地域に暮らす人たちには、本県が持つ食や文化、観光スポット

などを SNS やゲームを活用して魅力を伝え、本県への移住を促すこと。さらには、移住先として選んでもらうために、仕事の提供や空き家を利用した移住環境の整備についても支援しようとするなど、施策を複合的に組み合わせ実施することをご提案されていることはとても大切なことであり感心いたしました。

もちろん本県においても、人口減少の克服を県政の最重要課題と位置付けて、UIJ ターンや創業・起業の支援、子どもを産み育てやすい環境づくりなど様々な施策を組み合わせながら取組を実施しておりますが、皆さんからご提案頂いた「TikTok」や「YouTube」といった動画を使った若者への魅力の発信については、これまでの県の取り組みをさらに充実強化させていく必要があると感じております。また、県に関連するアニメや漫画の聖地巡礼スポットとしての PR も含め、より魅力的な興味を引く動画を作成し、広く発信していくよう今後一般質問等の機会を捉え、県に対し私も求めて参ります。

結びに、コロナ禍の中、発表に向け青森県の人口減少に問題意識を持って調査研究され、費やしてくれた時間と流した努力の汗に心から感謝申し上げます。

● よしまた よう 吉俣 洋 議員(日本共産党)



みなさんの提案から学んだことを、次の2点に整理して述べます。

1つは、青森の魅力をどう発信するかということです。みなさん自身の関心や思いに引き寄せて提案されていることと思います。

SNSの活用手法は、私自身もよく学びたいと思います。動画は短く、ハッシュタグを活用してっていいことですね。「个性的で親しみやすい感じの方が流行りやすい」という指摘を読み、一人ひとりの個性と魅力が大事にされることが、本県の魅力の源泉になることを感じました。

「イベント開催」という形で、県内各地の観光資源の活用が提案されています。とても大事だと思います。青森に住む我々にとっても、県内の観光地は、青森の良さを再発見する場所になると思います。コロナ禍で苦境にある観光業界ですが、若い方々が青森の観光の魅力を感じてくれることは、大きな希望になると思います。

観光については、「観光コンテンツをどう磨くか」ということも大事だと思っていたので、みなさんから、マンガやアニメの活用が呼びかけられたことを嬉しく思いました。実は私も県議会の委員会でワンピースをとりあげたことがあります。カイドウの悪魔の実は幻獣種モデル青龍ですが、実は十和田神社が祀っているのが青龍なんです。いまちょうどワノ国編が熱いときなので、うまく十和田湖観光つながらないかなと考えていました。

青森の魅力を発信するためにも、魅力を再発見・発掘することが大事だということを学ばされました。

もう1つ。人口問題の課題として住宅問題を取りあげ、空き家に着目して位置付けたことです。

住居がなければ生きていけないですから、ここが根本だということであらためて学びました。そして、空き家のリフォームがもたらす効果にみなさんが注目し、提案されたことを受け止めたと思います。古民家が流行っているように、空き家を活用した街づくりというのも面白いですよ。大いに研究したいと思います。